

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0173600743		
法人名	医療法人社団 廣仁会		
事業所名	グループホームふるさとおいわけ		
所在地	〒059-1931 勇払郡安平町追分中央1番地41 (電話) 0145-26-6111		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年5月12日

【情報提供票より】 (20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	1月	15日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤	15人, 非常勤	4人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000円			
その他の経費(月額)	光熱水費	25,000円	冬季暖房(10月～3月)	5,000円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(43,000円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	180円	昼食	270円
	夕食	360円	おやつ	90円
	または1日当たり		900円	

(4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名	
要介護1	5名	要介護2	5名			
要介護3	4名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	68歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三上内科クリニック、千歳皮膚科クリニック、 オイワケデンタルクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「まごころ家族のように」の理念を掲げ、家庭的で地域に根ざした、ふれあいのある生活を目指し、施設長を始め、管理者、職員は実現に向け取り組んでいる。運営者は、職員育成の重要性を認識し、内部研修・外部研修に積極的に取り組んでいる。更に、職員一人ひとりの意見も参考にして、利用者のケアに活かしている。職員は、利用者、家族からの信頼も厚く、利用者にとって事業所での暮らしが穏やかで、居心地の良い場所となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「入居後の権利義務について口頭で説明し理解を得ているが具現化した権利義務の内容を整理し分かり易く示す工夫をしてほしい」との指摘には契約書に権利義務が明示され、運営規程に苦情受付機関も明示されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が、評価に意義や必要性を認識している。自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめた。前回の外部評価で見出された課題についても、全体会議やユニット会議などで、検討し改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成20年2月12日に設立し、3月18日に第1回運営推進会議を予定している。会議では、情報を共有し、参加者からの率直な意見を引き出し、事業所のサービスの質の向上に反映させていく事を期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月写真入りの手紙や請求書を送付しながら、利用者の状況を伝えている。家族の来訪時にも、日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。金銭出納帳は、領収書を添付し送付している。家族の不満や苦情は、来訪時に気軽に話せるような雰囲気作りに努めているが、更に家族の意見を積極的に聞くために、家族会などの場面作りの検討を期待する。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣からの入居者が多く、自治会、町内会、老人会からの行事案内を頂いたり、買い物でも周りからの声かけがあるなど、地域の人々と馴染みの関係を築いている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的で地域に根ざしたふれあいのある生活を目指し、「まごころ家族のように」を理念に掲げ、その実現に向け、日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に目に付く場所に掲げて、毎月のユニット会議で理念について話し合い、職員間で共有し、実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣からの入居者が多く、自治会、町内会、老人会からの行事案内を頂いたり、買い物でも周りからの声かけがあるなど、地域の人々と馴染みの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義や必要性を認識している。自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめた。前回の外部評価で見出された課題についても、全体会議やユニット会議などで検討し、改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議の開催に向けた取り組みが行われている。	○	2月12日に設立し、3月18日に第1回運営推進会議を予定している。会議では、情報を共有し、参加者からの率直な意見を引き出し、事業所のサービスの質の向上に反映させていく事を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長を中心に、町の担当者や他の福祉関係団体と常に連絡を取り合い、情報交換を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、写真入りの手紙や請求書を送付して、利用者の状況を伝えている。家族の来訪時にも、日々の暮らしぶりや健康状態などを、報告している。家族の状況に合わせ、電話連絡も行っている。金銭出納帳は、領収書を添付して送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や来所時等に意見、要望、不満等は聞くように努めている。	○	家族が気軽に不満や苦情が言える雰囲気づくりや、家族の意見などを積極的に聞くために、家族会などの場面づくりの検討を希望する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は有るが、離職者は少ない。合同行事などで、常に両ユニットを行き来して馴染みの関係が築かれているので、職員の異動に関するダメージは少ない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識している。月に1度、内部研修を行い、外部研修も積極的に参加する体制を整えている。後日、研修成果を発表し、職員間で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所見学、親睦会に参加して意見交換は行われているが、相互訪問まで至っていない。	○	現在、事業所間で見学研修の計画が進行中である。早い実現を願い、相互の関係が更に深まる事を期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する前に、1ヶ月～2ヶ月の期間、週1回～3回位体験利用して頂き、事業所に徐々に馴染んでもらえる様に、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の中で、利用者から生活の知恵や技を学ぶ機会が多く、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話や行動などから、本人の希望や意向を汲み取るよう努めている。家族もチームの一員として、協力頂いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度のモニタリングを基に、本人・家族の思いや意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合には、実情に応じて、随時見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じた対応がなされている。利用者の通院の為の送迎は、町内だけでなく、町外へも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療を受けられる事で、利用者の受療状況が把握されている。健康管理面にも安心で、良好な関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、家族やかかりつけ医との話し合いは行われているが、事業所の方針が定まっていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、出来るだけ早い段階で話し合い、関係者全体の方針の統一を図っていく事が重要となる。「終末期・重度化の生活支援・指針」などについて書面にて確認し、方針を共有する事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格や生活歴を理解し、プライドを損ねることの無いよう言葉掛けや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活リズムはあるものの、本人の意向やペースに沿った暮らしが出来るように支援している。訪問時にも、早朝から一人散歩されている利用者を見受け、その様子が伺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットで献立が作られている。食事に至るまでの過程で、買い物や献立作り、調理、片付けなど、利用者一人ひとりの体力や能力に合わせて、職員と共に行い、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の目安で入浴支援が行われている。希望により朝や夜間入浴にも対応し、利用者の希望やペースに合わせた支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や好みを念頭に置き、支援している。散歩、買い物、農作業や調理など、利用者の意欲や希望を出来るだけ大切にしたい支援を心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩、買い物あるいはドライブなど、利用者の希望に合わせて支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については、全体会議で話し合いを行っている。日中は開放されているが、夜間は安全確保のため、中から簡単に開けられる鍵を使用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、昼間に火災の避難訓練が行われているが、夜間、災害時対応の訓練はしていない。	○	夜間を想定した災害時のマニュアルの整備が求められる。地域住民に事業所の災害対策に理解を求め、更に運営推進会議で協力を呼びかけ、近隣住民の参加を得ての訓練実施の取り組みを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日把握し、記録されている。利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。カロリー管理の必要がある利用者には、栄養士の助言も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはゆったりとしていて、明るく開放的である。リビングやラウンジにそれぞれソファや椅子が置かれ、利用者が好きな場所で、思い思いに過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室に、家具や寝具など思い思いの私物が持ち込まれ、生活を楽しめる工夫がされている。		

※  は、重点項目。